《代議員選挙会告》

日本神経学会代議員選挙の実施について（予告）

本学会は平成23年度から，代議員は選挙により選出することになりました．今年は，平成25年学術大会終了日の翌日から任期（平成25年6月から2年）が始まる代議員について，選出が行われます．2回目の選挙になりますが，一部手続き等について第1回目の選挙の実施状況を踏まえて，見直しを検討しておりますので，決まり次第ホームページや選挙公示でお知らせします．

選挙の公示は，本年**10月にホームページ（会員専用ページ）**に，そして**臨床神経学（52巻10号）**にも掲載する予定にしておりますので，ご留意ください．

1　代議員選出方法の概要

代議員の選出方法は，基本的には前回の選挙（平成23年度代議員選挙）と同じです．これまでの説明の繰り返しになりますが，以下概要を説明します．

(1) 代議員の区分

代議員は「支部選出代議員」と「社員総会選出代議員」に区分されますが，今回の選挙では「支部選出代議員」を選出します．

(2) 代議員選出定数

代議員の選出数は，平成24年9月30日現在の正会員数をもとに支部の会員数に比例して各支部に割り振られます．

この支部選挙区ごとの定数は，選挙管理委員会が決定し，公示します．

(3) 会員が所属する支部選挙区

代議員選出のための選挙は，支部選挙区ごとに行われます（選挙事務は，学会事務局が行います．）．会員は，勤務先の所在地を原則として，いずれかの支部選挙区に所属することになります（勤務先がない場合は，住居の所在地です．）．

支部選挙区は，現在の地方会支部の区分を基本としていますが，伊豆地区については地域の特性を考慮して所属支部選挙区を決めております．具体的な内容は，日本神経学会代議員選出要項第4条別表で定めておりますので，ご確認ください．

(4) 立候補

代議員になるためには，所属する支部選挙区から立候補する必要があります．

代議員の任期は1期2年です．現職代議員（平成24年度補欠選出代議員を含みます．）も平成25年学術大会終了日をもって任期満了となりますので，新たに立候補する会員と同じく，立候補が必要となります．

現職代議員が立候補する場合は，推薦は不要ですが，新たに代議員に立候補する会員は，現職代議員の推薦が必要です．

立候補の手続きは，選挙の公示に記載されます．

(5) 投票

立候補者名簿から3人までを投票で選んで頂きます．投票は，郵送により行います．立候補者名簿は公示されますが，投票用紙と一緒に，投票期限の1月前までに，選挙権を有する会員に郵便でお送りする予定です．

(6) 選挙権と被選挙権

選挙権および被選挙権は，**平成24年9月30日現在で会費を完納している正会員**に与えられます．会費未納の正

会員は，代議員選挙に参加できませんので，会費の納入を期日（9 月 30 日）までにお済ませください．

2　その他

(1) 選挙に関する公示

選挙に関する公示は，機関誌「臨床神経学」にも掲載する予定ですが，ホームページで行うことが原則です．選挙に関する公示は，ホームページの会員専用ページに掲載されますので，ご覧ください．

(2) メールアドレスの登録のお願い

メールアドレスを登録いただきますと，ホームページに選挙公示が掲載された場合など，選挙に関する情報など学会からのお知らせをすることができます．この機会にぜひ登録してください．登録は「会員マイページ」から行うことができます．

日本神経学会選挙管理委員会

この件についてのお問い合わせ先
日本神経学会事務局
TEL　03-3815-1080
e-mail　HP「お問い合わせ」から

第 54 回日本神経学会学術大会のお知らせ

第 54 回日本神経学会学術大会
大会長　水澤　英洋

開　催　概　要

1. **学術大会会期**：平成 25 年（2013 年）5 月 29 日（水）～6 月 1 日（土）
「神経学―新しい時代への挑戦―」をテーマとして，上記日程で開催いたします．例年通り，1 日目に生涯教育セミナー（レクチャー，Hands-on），卒後教育セミナーが開催されます．
2. **学術大会会場**：東京国際フォーラム
〒100-0005　東京都千代田区丸の内 3-5-1
TEL : 03-5221-9000（代）
3. **演題募集期間**：平成 24 年 10 月 10 日（水）～12 月 13 日（木）
※募集期間の延長はありませんのでご注意ください．
4. **シンポジウムの公募**：シンポジウムの公募は 9 月以降 HP にてご案内いたします．
5. **事前参加登録**：平成 25 月 1 月初旬予定
※事前参加登録はすべてオンラインにより登録を行います．
※ランチョンセミナー，イブニングセミナーもオンラインによる事前登録制とする予定です．
※詳細は追ってホームページでご案内いたします．（http://www.congre.co.jp/neuro54/）
6. **参加費**：事前参加登録費：15,000 円（当日　18,000 円）
学部学生，初期研修医は参加費無料となります．詳細は，ホームページでご案内いたします．
7. **託児所**：会期中，会場内に託児所をご用意いたします．お申し込み方法等につきましては，追ってホームページでご案内いたします．
8. **エクスカーション**：会期中エクスカーションを企画しております．お申し込み方法等につきましては，追ってホームページでご案内いたします．
9. **お問い合わせ**：
【学術大会本部】
東京医科歯科大学大学院脳神経病態学分野
〒113-8519　東京都文京区湯島 1-5-45
TEL：03-5803-5234　FAX：03-5803-0169
【学術大会運営事務局】
株式会社コングレ
〒102-8481　東京都千代田区麹町 5-1　弘済会館ビル 6 階
TEL：03-5216-5318　FAX：03-5216-5552
E-mail：neuro54@congre.co.jp

一般演題申込み要項

口演発表とポスター発表を予定しております．

1. **申し込み**：申し込みはすべてオンラインにて受け付けます．
2. **演題募集期間**：平成 24 年 10 月 10 日（水）～12 月 13 日（木）
※募集期間の延長はありませんのでご注意ください．
3. **演題要旨作成時の注意**
(1) 演題の制限：1 演者につき 1 題にします．ただし，共同演者になることは差し支えありません．一施設から多数の申し込みも歓迎いたします．
(2) ご登録いただく項目
・発表形式区分：（口演もしくはポスターより選択）
・筆頭演者氏名：（姓・名の順でご記入ください）

・筆頭演者電子メールアドレス
・演題名：全角で 40 字以内
・発表者：筆頭演者と異なる場合のみお書きください.
・演者・共同演者氏名：ふりがなおよび所属機関（10 文字程度で）
※総演者数は 21 名以内となります.
・演題抄録：【目的】,【方法】,【結果】,【結論】に分けて簡潔に記入してください．その都度改行する必要はありません.
・日本語または英語に限ります．抄録本文の文字数は全角 800 文字以内といたします．英数字は半角とします.
・抄録内容が不完全な場合（誤字，脱字，具体的な数値の不足,【目的】,【方法】,【結果】,【結論】に項目立てされていないなど），不採用になりますので抄録作成の際に最新の注意を払ってご投稿ください.

(3) 筆頭演者は本学会の会員である必要があり，登録時に会員番号を入力していただきます．皆様の会員番号は郵送された臨床神経学会誌の宛名ラベルに記されています．未入会者は登録前に日本神経学会事務局（〒113-0034　東京都文京区湯島 2-31-21　一丸ビル　03-3815-1080）へご連絡の上，入会手続きをお取りください.
(4) 演題の査読を行いますので，抄録本文の中で，所属機関が明らかになるような記述は避けてください.
(5) 患者の個人情報に抵触する可能性のある内容は，患者あるいはその代理人からインフォームド・コンセントを得た上で，個人が特定できないよう十分留意して発表してください．個人が特定される恐れのある情報を含む発表は禁止します.
(6) 第 54 回日本神経学会学術大会　最優秀口演賞，第 54 回日本神経学会学術大会　最優秀ポスター賞を設けます．抄録登録時に応募を受け付けます．応募資格は，登録時，学部卒業後 15 年未満とします.
(7) 抄録が採択された場合，事務局からの修正依頼はありません．登録された抄録をそのまま「臨床神経学」53 巻 12 号（電子版）に掲載いたします．また学術大会終了後の修正も承りませんので注意深く抄録をご準備ください.

4. 利益相反の開示について

産学連携による臨床研究の適正な推進を図り，科学性・倫理性を担保に遂行された臨床研究成果の発表における中立性と透明性を確保するため，すべての発表者に「利益相反（Conflict of Interest, COI と略す）」の開示を求めることになっております.

演題登録画面の「利益相反」の入力欄にて「あり」「なし」をご選択ください.「あり」の場合，演題登録後に日本神経学会 WEB サイトの所定ページより「COI 自己申告書様式」をダウンロードいただき，ご記入の上，書留にて下記まで送付してください.

＜送付先＞
第 54 回日本神経学会学術大会　運営事務局　COI 担当行き
株式会社コングレ
〒102-8481　東京都千代田区麹町 5-1　弘済会館ビル 6 階
TEL：03-5216-5318　FAX：03-5216-5552

なお，利益相反について，専門的な内容に関するご質問は学会事務局までお問合せください.

＜日本神経学会事務局＞
〒113-0034　東京都文京区湯島 2-31-21　一丸ビル
TEL：03-3815-1080　FAX：03-3815-1931

5. 口演による発表方法

(1) PC プロジェクターが使用可能です.
(2) ビデオプロジェクターの使用はできませんが，PC からの動画投影は可能です.
(3) 発表データはメディア（USB メモリーまたは CD-R）での持ち込みとなります．ただし動画がある場合にはご自身の PC をご持参ください.
(4) 研究倫理諸規定および個人情報保護の諸規定に遵守してご発表ください.
(5) 利益相反の開示についてのスライドをご提示いただきます．詳しくは日本神経学会ホームページの「学会概要」内,「定款・規則」をご参照ください.
(6) 学術大会の国際化のため，口演スライドはできるだけ英語で作成するようお願いいたします.

6. ポスター形式による発表方法

(1) 展示パネルは縦 210cm×横 90cm の予定です．パネル上部の演題番号のみ，学術大会事務局で用意いたします．演題・所属・氏名（簡単に）は各自で 20cm×70cm に横書きしてください．

(2) ポスターは要旨・目的・方法・結果・考察の順に大きくわかりやすく書いてください．文章は 2〜3m 離れたところからでも見えるような大きなポイント文字を使い，図式は一辺が 20cm 以上の大きさでタイトル・簡単な説明をつけてください．

(3) パネル自体に直接文字や図表を書いたり，パネルに糊づけしたりはできません．

(4) ポスターをパネルに貼りつけるための画鋲は会場に用意いたします．

(5) ポスター発表のスケジュール等は演題採用通知を発表後にご案内させていただきます．

(6) 研究倫理規定および個人情報保護の諸規定を順守してご発表ください．

(7) 利益相反の開示についての内容を記載してください．詳しくは日本神経学会のホームページ「学会概要」内，「定款・規則」をご参照ください．

(8) 学術大会の国際化のため，ポスターはできるだけ英語で作成するようお願いいたします．

7. 日本神経学会　学術大会運営委員（50 音順・敬称略）

梶　龍兒　吉良　潤一　鈴木　則宏　祖父江　元　辻　省次
西澤　正豊　水澤　英洋　山本　光利

8. 第 54 回日本神経学会学術大会　年次学術大会学術委員（50 音順・敬称略）

青木　正志　赤松　直樹　荒木　信夫　飯塚　高浩　五十嵐博中
池田　昭夫　石合　純夫　石川　欽也　伊東　大介　井上　治久
宇川　義一　内原　俊記　大八木保政　荻野美恵子　小野寺　理
勝野　雅央　亀井　聡　河村　満　神田　隆　楠　進
國本　雅也　桑原　聡　幸原　伸夫　後藤　順　榊原　隆次
佐古田三郎　清水　潤　清水　優子　下濱　俊　園生　雅弘
髙橋　一司　武田　篤　武田　克彦　棚橋　紀夫　玉岡　晃
戸田　達史　冨本　秀和　永井　博子　中川　正法　中瀬　浩史
西野　一三　西山　和利　野元　正弘　服部　信孝　林　明人
平田　幸一　福永　秀敏　福山　秀直　藤原　一男　松浦　徹
松尾　秀徳　松本　昌泰　村山　繁雄　望月　秀樹　本村　政勝
山田　正仁　山村　隆　山脇　正永　横田　隆徳

各　種　企　画　の　お　知　ら　せ

1. 大会長講演

水澤　英洋　（東京医科歯科大学大学院脳神経病態学分野）

2. 特別講演：2012 年学会賞・楢林賞受賞者招待講演

2012 年学会賞：岩田　淳（東京大学大学院医学系研究科分子脳病態科学）
2012 年楢林賞：武田　篤（東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野）

3. 教育講演，全日神経内科教育コース，チーム医療関連コース（予定）

4. ホットトピックス（診療ガイドライン，先端研究：予定）

5. Neuroscience frontier symposium, AAN-JSN joint symposium（予定）

6. East Asian Neurology Forum 関連プログラム（予定）

7. 企画シンポジウム（予定）

1）病態仮説に基づくアルツハイマー病治療法開発の現状と展望
2）血管性認知症と周辺病態；Vascular cognitive impairment（VCI）をめぐって
3）神経心理学の進歩：たいせつなことをわかりやすく
4）心房細動に伴う心原性脳塞栓症の予防
5）脳梗塞急性期治療の最前線
6）てんかん診療における焦点検索方法の進歩とてんかん外科（日本てんかん学会との共催）
7）群発頭痛の病態解明と治療
8）難治性慢性片頭痛の病態解明と治療

9）Recent progress in multiple system atrophy
10）パーキンソン病の初期診断
11）パーキンソン病の非薬物療法とエビデンス
12）Non-coding repeat expansion disorders
13）不随意運動の病態生理
14）中枢神経系感染症の遺伝子診断の進歩
15）Pathogenesis and treatment of NMO
16）重症筋無力症治療：現状を知り，今後を考える
17）GBS/CIDP をめぐる最新の話題
18）免疫性神経疾患の新しい展開：脳から自律神経障害まで
19）運動ニューロン疾患の遺伝学：update
20）末梢神経の再生医学：難治性末梢神経疾患治療の新たな水平線
21）筋疾患研究最前線
22）パーキンソン病の自律神経障害～全身とのクロストーク
23）神経筋疾患の核酸医薬による遺伝子治療
24）神経再生医療とリハビリテーション
25）脳卒中のリハビリ：回復期 6 か月の壁をこわす新しい治療戦略
26）iPS 細胞研究の現状と展望
27）神経疾患における MR 撮像法の最先端
28）神経筋疾患の超音波診断
29）Missing heritability
30）今後の難病医療
31）神経内科教育の Continuum
32）利益相反の各大学での取り組み
33）女性医師のキャリアアップをめざして：われわれの取り組み
34）救急場面における神経内科医のプレゼンス（日本神経救急学会との共催）
35）より良い在宅医療をめざして

8. 公募シンポジウム（予定）
9. 脳梗塞 rt-PA 適正使用講習会（予定）
10. 日本神経学会第 10 回生涯教育セミナー「レクチャー」（5 月 29 日（水））
11. 日本神経学会第 10 回生涯教育セミナー「Hands-on」（5 月 29 日（水））
12. 日本神経学会第 15 回卒後教育セミナー（5 月 29 日（水））
13. 日本神経学会市民講座（6 月 2 日（日））

2013年度「日本神経学会賞」応募要項

神経内科分野で大学・病院・診療所等に所属し，研究，教育，ないし実地診療に積極的に関わり，その発展・向上に寄与した方々を顕彰するため，日本神経学会では2002年から学会賞を設けており，毎年学術大会時に表彰が行われています．学会賞には学術研究部門，診療/教育部門の二部門があり，いずれも神経学の発展にとっては極めて重要です．学術研究部門のみならず，診療/教育部門についても積極的な応募をお願いいたします．

1. **賞の対象および対象者：**
   (1) 学術研究部門：神経学の学術研究の発展にとくに寄与した学会員，ただし受賞時の年齢が45歳以下であること．
   (2) 診療/教育部門：神経内科領域の診療あるいは教育の向上にとくに寄与した学会員，ただし年齢は問いません．
2. **提出書類：**ご提出いただきました書類については，一切返却できません．
   1. 履歴書：A4サイズ，縦長横書き，12ポイント．写真添付とともに大学卒業以降の経歴，賞，医籍登録番号，当学会会員番号，専門医の場合は専門医番号を記載してください．団体の場合は代表者について記載し，別紙に協力者の氏名，年齢，性，出身大学名，現在の所属/職位，当学会会員番号，（専門医番号）の一覧を記載してください（協力者は当学会会員である必要はありません）．
   2. 業績内容：A4サイズ，縦長横書き，12ポイント．
      a. 業績課題名：
         (1) 学術研究，(2) 診療，(3) 教育，の3分野から1分野を選択してください．業績内容が一瞥できる簡単な課題名をつけてください．
      b. 業 績 事 由：
         対象となる業績について，いつ頃から，何処で，どのような組織で，何を行ったものか概略がわかるように記載してください．また，研究業績については，その業績の持つ研究分野での意義と今後期待される発展，社会的貢献についての評価を，診療/教育業績については，その業績の社会的貢献および今後期待される応用への見込みについての評価を加えてください．
   3. 業績目録：A4サイズ，縦長横書き，12ポイント．対象となる業績一覧を「臨床神経学」投稿規定D）執筆要項8．引用文献に準じて記載してください．
   4. 推薦書（自薦または他薦）：A4サイズ，縦長横書き，12ポイント．
   5. 添付資料：研究業績については対象となる研究に直接関係する論文別刷を，診療/教育業績については直接の関連資料を，各々6部ずつ添付してください（コピー可）．
3. **選考方法：**選考委員会が選考し，理事会の承認を得ます．選考委員会は代表理事，大会長，前大会長，編集委員長，診療向上委員をもって構成します．
4. **発表方法・内容：**2013年5月の第54回日本神経学会学術大会において表彰し，賞状および楯を贈呈します．表彰時の年度（西暦）の賞と呼ぶものとします．
5. **応募書類送付先：**一般社団法人 日本神経学会
   〒113-0034　東京都文京区湯島2―31―21　一丸ビル
6. **応募期間：2012年12月20日（木曜日）必着**

一般社団法人 日本神経学会　代表理事
第54回日本神経学会学術大会　大会長
水澤　英洋

2013年度「楢林賞」応募要項

日本神経学会は故楢林博太郎先生のご業績を称えて，錐体外路系の基礎研究分野あるいはそれに関連する疾患についての優れた研究に対し，毎年1名を選んで楢林賞を贈ります．国籍，年令，身分，資格，自薦・他薦は問いません．

1. **賞の対象および対象者**：錐体外路系の基礎研究分野あるいはそれに関連する疾患についての優れた研究．国籍，年齢，身分，資格，自薦・他薦は問いません．
2. **提出書類**：ご提出いただきました書類については，一切返却できません．
   1. 履歴書：A4サイズ，縦長横書き，12ポイント．写真添付とともに大学卒業以降の経歴，受賞歴を記載してください．
   2. 業績内容：A4サイズ2枚以内，縦長横書き，12ポイント．
      a. 業績課題名：
         業績内容が一瞥できる簡単な課題名をつけてください．
      b. 業 績 事 由：
         対象となる業績について，いつ頃から，何処で，どのような組織で，何を行ったものか概略がわかるように記載してください．また，その業績の持つ研究分野での意義と今後期待される発展，社会的貢献，国際的貢献についての評価を加えてください．
   3. 業績目録：A4サイズ，縦長横書き，12ポイント．対象となる業績一覧を「臨床神経学」投稿規定D）執筆要項8．引用文献に準じて記載してください．
   4. 推薦書（他薦の場合のみ必要）：A4サイズ，縦長横書き，12ポイント．
   5. 添付資料：対象となる業績に直接関係する論文別刷または資料を，各々6部ずつ添付してください（コピー可）．
3. **選考方法**：選考委員会が選考し，理事会の承認を得ます．選考委員会は代表理事，大会長，前大会長，編集委員長，診療向上委員長をもって構成します．
4. **発表方法・内容**：2013年5月の第54回日本神経学会学術大会において表彰し，賞状・楯および副賞を贈呈します．表彰時の年度（西暦）の賞と呼ぶものとします．
5. **応募書類送付先**：一般社団法人 日本神経学会
   〒113-0034　東京都文京区湯島2―31―21　一丸ビル
6. **応募期間：2012年12月20日（木曜日）必着**

一般社団法人 日本神経学会　代表理事
第54回日本神経学会学術大会　大会長
水澤　英洋

日本神経学会　第16回卒後教育セミナープログラム

日　時：2012年12月1日（土曜日）時間：12：55〜20：40（当日の受付　12：15〜12：55）
場　所：セミナーハウス　クロス・ウェーブ船橋　（1階講堂ほか）
【住所】〒273-0005 千葉県船橋市本町2-9-3
【TEL】047-436-0111　【FAX】047-436-0112
【交通】JR線　船橋駅より徒歩10分（東京駅から総武線快速で25分）
京成線　船橋駅より徒歩7分
なお，駐車場（平面駐車3台・立体駐車23台）はご予約制で無料にてご利用可能です.
Tutor：**神経診察**：今福一郎（横浜労災病院神経内科部長）
亀山　隆（中部ろうさい病院神経内科部長）
楠　　進（近畿大学医学部神経内科教授）
園生雅弘（帝京大学医学部神経内科教授）
橋本洋一郎（熊本市民病院神経内科部長）
高次脳機能診察：今村　徹（新潟医療福祉大学医療技術学部言語聴覚学科教授）
鈴木匡子（山形大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学教授）
福井俊哉（昭和大学横浜市北部病院内科神経教授）
森　悦朗（東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻高次機能障害学教授）
講　　演：中野今治，今村　徹，千葉厚郎，藤原一男
参加人員：申込先着80名
対　　象：神経内科専門医試験受験予定の神経内科医が主体．診察技能のブラッシュアップや知識整理希望の専門医も歓迎します．但し，専門医クレジットは付与されません．
申込方法：2012年11月5日（月）必着でメール（j.n.l2@gol.com）にてお申し込みください.
（㊟ ジェイ.エヌ.エル2@ジーオーエル.シーオーエムとなります．宛先入力はお間違えのないようお願い致します.）
件名に「第16回卒後セミナー参加申し込み」，本文に「会員番号」「所属」「氏名」を記載し送信してください．**（お車でのお越しをご希望の方は，その旨もご記載ください.）**参加決定者へは参加費の振込用紙を順次お送りし，お振込みの確認が出来次第，受講書（ハガキ）を，**学会誌発送先ご登録住所宛てに発送**致します.
参 加 費：20,000円（夕食代を含む）
セミナーテキスト：**冊子体は廃止になりました.**
神経学会HPの会員専用ページ内，卒後教育セミナー上にuploadされますので，各自プリントアウトしてお持ち下さい（当日の予備は予定しておりませんのでご注意ください）.

プログラム

部会長挨拶：12：55〜13：00（会場：1階講堂）

1. 13：00〜14：00（会場：1階講堂）
   座長　亀山　隆（中部ろうさい病院神経内科部長）
   演者　中野今治（自治医科大学神経内科教授）
   演題　神経診察法

2. 14：00〜14：50（会場：1階講堂）
   座長　鈴木匡子（山形大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学教授）
   演者　今村　徹（新潟医療福祉大学医療技術学部言語聴覚学科教授）
   演題　高次脳機能診察

   14：50〜15：10　コーヒーブレイク（会場：未定）

3. 15：10〜18：00（会場：2階・3階各部屋）
   演習　1グループ10名で①〜⑧グループに各自移動し分かれる.

	神経診察		高次脳機能診察	
15：10〜	221	グループ①：今福一郎	222	グループ⑤：今村　徹
	223	グループ②：園生雅弘	224	グループ⑥：鈴木匡子
	321	グループ③：橋本洋一郎	322	グループ⑦：福井俊哉
	323	グループ④：亀山　隆	324	グループ⑧：森　悦朗
16：30 16：40	小休止		小休止	
	221	グループ⑤：今福一郎	222	グループ①：今村　徹
	223	グループ⑥：園生雅弘	224	グループ②：鈴木匡子
	321	グループ⑦：楠　　進	322	グループ③：福井俊哉
〜18：00	323	グループ⑧：亀山　隆	324	グループ④：森　悦朗

   18：00〜18：50　夕食　（会場：4階レストラン）

4. 18：50〜19：40（会場：1階講堂）
   座長　楠　　進（近畿大学医学部神経内科教授）
   演者　千葉厚郎（杏林大学医学部附属病院第一内科（神経班）教授・診療科長）
   演題　免疫性末梢神経疾患

5. 19：40〜20：30（会場：1階講堂）
   座長　今福一郎（横浜労災病院神経内科部長）
   演者　藤原一男（東北大学大学院医学系研究科多発性硬化症治療学寄付講座教授）
   演題　MS・NMO

6. 20：30〜20：40（会場：1階講堂）
   アンケート記入および部会長挨拶

   20：40終了

日本神経学会　議事録

平成 24 年度第 2 回日本神経学会理事会議事要旨

1　日　時：平成 24 年 5 月 22 日（火）12：00～14：15
2　場　所：東京国際フォーラム　G502 会議室
3　出席理事：阿部康二，糸山泰人，内山真一郎，梶　龍兒，吉良潤一，佐古田三郎，佐々木秀直，鈴木則宏，祖父江元，
　　高橋良輔，辻　貞俊，辻　省次，中島健二，中野今治，西澤正豊，福永秀敏，水澤英洋，山本光利
4　出席監事：葛原茂樹，清水輝夫

（五十音順　敬称略）

5　陪　席（外部から）
　小村司法書士事務所　中村拓雄
　アスト税理士法人　　前川修満，小飯田浩伸
　　（内部から）
　選挙管理委員会委員長　内野　誠
　用語委員会委員長　　河村　満
　第 53 回学術大会運営事務局　高橋愼一，高橋一司
　第 54 回学術大会運営事務局　横田隆徳
　第 55 回学術大会運営事務局　大八木保政
　事務局　　寺尾安生総務幹事，池田義春事務長，満冨陽子，尾上友子

（配布資料）
1　第 53 回日本神経学会学術大会時　理事会・社員総会資料
2（別冊資料）日本神経学会理事会資料
3　2011 年度日本神経学会指導医一覧
4　2012 理事選挙報告資料
5　一般社団法人　日本神経学会役員等の旅費規程（案）関係資料
6　一般社団法人　日本神経学会各種委員会設置に関する規程改正（案）
7　日本神経学会学術大会関係資料
8　英文誌編集委員会関係資料
9　国際対応委員会関係資料
10　日本神経学会：用語委員会より
11　広報委員会議題
12　日本神経学会ガイドライン統括委員会関係資料
13　日本神経学会各種委員会委員長一覧（2012. 4. 22 現在）
14　日本神経学会キャリア形成促進ワーキンググループ資料
15　2008 年の専門医更新対象者一覧

○　議事に入る前に
1　出席状況確認
　水澤代表理事から，理事，監事とも全員出席していることが報告され，定足数を満たしている旨説明があった．
2　陪席者紹介
　水澤代表理事から陪席者の紹介があり，出席の了解が求められ承認された．

○　議　事
　会員状況報告
　水澤代表理事から，平成 24 年 3 月 31 日現在の会員状況については，社員総会で報告する旨，説明があり，承認された．

（議題）
1　平成 23 事業報告について（資料　P10）
　水澤代表理事から，資料に基づき平成 23 年度に実施した事業について報告があった．第 52 回日本神経学会学術大会を開催したこと，学術大会の運営，地方会開催，臨床神経学の刊行，診療ガイドラインを策定したこと，市民公開講座，神経内科学教室の整備への取り組み，日本神経学会賞，楢林賞の受賞者を決定したこと，専門医・教育施設の認定を行ったこと，診療向上のための会員を対象とした教育活動について，生涯教育講演会，卒後教育事業，卒前・初期臨床教育事業をおこなったこと，診療報

酬改定への取り組みを行ったこと，新薬承認審査の促進等に関する要望活動を行ったこと，国際協力として AAN ならびに東アジア神経学フォーラム（EANF）に関連する事業をおこなったこと，WCN2017 の招致活動を開始したこと，COI の自己申告を行っていること，会員管理としてマイページを導入したこと，東北地方太平洋沖地震への対応，理事選挙・学術大会長の選出，地方会支部運営細則の制定を行ったこと，などが報告された．

2　平成 23 年度決算について（資料　P11）

財務委員会委員長の辻省次理事から，資料に基づき平成 23 年度決算について説明があった．事業収入としては予算額が 3 億 9670 万円，実績額が 4 億 4480 万円で，約 4800 万円の収入増があったこと，事業支出も 5910 万円の節約がなされ，全体として 1 億円を超える繰越額が生じたが，これは平成 23 年度の特殊状況を反映したもので今後は楽観できないことが説明された．収入面では名古屋での第 52 回学術大会で 4100 万円の黒字であったこと，会費収入が順調に推移していること，認定医更新料が増える年度にあたっていたこと，ガイドラインの印税率が辻貞俊理事の努力により 10% → 12% に上がったことに伴い，印税収入が増加したこと，支出面においては，ガイドライン作成事業の経費が節減により減ったこと，専門医制度事業でも節約がなされたことなどの要因が報告された．一方管理費は，学会事業を事務局主導にすることなど事務局機能の強化のために増加した．また広告会社の丹水社の貸し倒れに伴い，800 万円を超える損失があったことが報告された．

アスト税理士法人前川会計士から，決算内容について，会計処理の手続きは学術研究団体として妥当であり，財務状態，同会計年度の運営成績を適正に表示していることが認められるとの報告があった．

この監査報告に関して，丹水社の件は以前からの問題であるのに，今回初めて高額の損失の報告がなされたのは公認会計士として適切な業務が行われていたのか，という質問が出された．アスト税理士法人前川会計士からは，丹水社の支払いが滞っている点は以前より認識していたが，引当金の試算をする合理的根拠が欠けていたため，特には処理をおこなっていなかったが，神経学会事務局には注意喚起を行なっていた，法的には問題ないと考える，とのことであった．池田事務長からは，訴訟をして差し押さえができるようにしてきたが，破産宣告で回収不能になった，という状況が説明された．水澤代表理事からは，この件については，前代表理事の時代に気づかれた時点から丹水社と話し合って対策を講じて，当初は計画に従って支払が行われたが徐々に滞るようになり，法的処置を採るに至ったが，この度倒産ということになったものである．この間のことは，理事会でもその都度報告をしてきている．現在も太田弁護士と相談しながら回収の努力は続けているが，見通しが厳しいとのことから，今回，財政的に余裕があるうちに事務処理をするのが適切との助言にしたがったものである，との説明があった．

3　平成 24 年度事業計画（案）について（資料　P14）

水澤代表理事から，資料に基づき平成 24 年度の事業計画案について説明があり，承認された．第 53 回日本神経学会学術大会を開催・運営すること，地方会を開催すること，臨床神経学の刊行（電子ジャーナル化，電子目次の配信），英文機関誌の発行，診療ガイドラインを策定すること，市民公開講座，広報活動，神経内科学教室の整備への取り組みを引き続き行うこと，研究奨励として日本神経学会賞，楢林賞の受賞者を決定すること，専門医・教育施設の認定をおこなうこと，診療向上のための会員を対象とした教育活動について，生涯教育講演会，卒後教育事業，卒前・初期臨床教育事業を行うこと，診療報酬改定への取り組みを行うこと，新薬承認審査の促進等に関する要望活動を行うこと，国際協力として AAN ならびに東アジア神経学フォーラム（EANF）に関連する事業を行うこと，WCN2017 の招致活動を行うこと，会員管理としてマイページを導入し本年 6 月より運用すること，災害時医療支援プログラムを策定し実行に移していくこと，理事選挙・2 回目の代議員選挙を行うこと，などが報告された．

4　平成 24 年度予算（案）について（資料　P29）

財務委員長の辻省次理事から，平成 24 年度収支予算（案）について説明があり，承認された．収入は 3 億 9868 万円，支出は 3 億 9123 万円を見こんでおり，平成 23 年度と比較すると予備費が 4027 万円減少する見込みである．その理由として一般収入が前年度に比較して認定医更新料が減少するため，1000 万円減少する見込みであること，支出では臨床神経学の 11 月号（学術大会号）において論文数が増加するため発刊の費用が増加すること，生涯教育事業や教育コンテンツ配信事業など教育関係にかかる予算が膨らむことなどから，学術大会の余剰金を加えてもプラスマイナス 0 の状態であることが説明された．その上，英文誌刊行や事務局機能強化に伴う支出の増加も予想される．消費税が上がる可能性も考えると全体としては大変厳しい状況である．収入をアップさせるか，節減をする対策が必要となるが，会員数の増加，企業との連携を深め法人会員を増やす，認定医更新料をあげるなどの対策が考えられることが報告された．教育コンテンツ配信事業についてもアクセスの料金を設定することにより，収益をあげることが考えられる．

認定医更新料を上げる場合は，なぜ上げるのかその理由をはっきりさせる必要があるという意見が出された．辻委員長からは，教育事業についてももう少し受益者負担を増やすことも考えられるが参加者は負担増を嫌うので，一般病院の医師などのアンケートを行い，その調査結果を踏まえて来年どうするかを決めていきたいとのことであった．

5　名誉会員推薦について（資料　P40）

水澤代表理事から，資料に基づき日本人 1 名，外国人 3 名を名誉会員としたい旨提案があった．日本人名誉会員推薦基準（2000 年 5 月 23 日理事会承認事項）について説明があった．また外国人の名誉会員については年齢の基準は含めないが，今後，日本神経学会の発展に大きく寄与すると思われる活動をしている者とすることが説明された．日本人では，辻貞俊産業医科大学教授，外国人では Innsbruck Medical University の Werner Poewe 教授（推薦者：山本光利理事），Washington 大学医学部の Gregory J del Zoppo 教授（推薦者：鈴木則宏教授），Case Medical Center の Hans O Lüders 教授（推薦者：辻貞俊理事）の 3 名が推薦され，承認された．

（日本人名誉会員推薦基準）
①年齢が 65 歳以上であること
②理事の経験
③常任委員会委員長 1 期以上の経験
上記の①，②　または　①，③に該当する者
6　定款等改正について（資料　P41）
①一般社団法人日本神経学会定款改正について
　水澤代表理事から，資料に基づき，新入会会員の推薦者を指導医に拡充すること，理事の定年と業務従事期間を明示すること，学術大会の名称に統一することなど，定款の一部改正案について提案があり，承認された．
②一般社団法人日本神経学会役員選出細則改正について（資料　P53）
　水澤代表理事から，役員選出細則について，資料に基づき理事が欠員になった場合全国の次点者から選任するため，内容的には変更がないものの，より明確に記載がなされた第 20 条第 2 項の改正案について説明があり，承認された．
③一般社団法人日本神経学会利益相反（COI）に関する運用指針の改正について
（資料　P59）
　水澤代表理事から，利益相反（COI）に関する運用指針の改正案について，これまで指針は産学連携による臨床研究が対象になっていたが，今回は基礎研究を含めた医学研究全般が対象になっていること，奨学寄付金に関する項目にいくつかの改訂があったことが説明され，承認された．
④一般社団法人日本神経学会役職員等旅費規程および事務職員旅費支給基準の制定について（日本神経学会役員等の旅費規程（案）関係資料）
　池田事務長から，配布資料 9 に基づき役職員等旅費規程（案）および事務職員旅費支給基準（案）について説明があり，承認された．現在大雑把に支払われていた旅費について，実態に即した旅費の支給になることが説明された．これまで学会で予約していたホテルについても，国家公務員の旅費にならい宿泊費を支給することになる，また宿泊の際には自分で予約をとることになる旨説明があった．ただし専門医試験についてはこれまで通り例外的に学会事務局が予約をすることになる．この規程案については 7 月 1 日以降の旅行から適応することになっている旨，説明があった．水澤代表理事からは，財務的には学会として負担が少なくなる見込みであり，旅費支給について，きちんとしたルールが出来上がることになるということが説明された．
⑤一般社団法人日本神経学会委員会設置に関する規程改正（案）について（日本神経学会各種委員会設置に関する規程改正（案）
　池田事務長から，資料 8 に基づき，すでに理事会で承認された教育委員会の再編について，委員会設置規程を改正するものである旨説明があり，承認された．教育委員会が再編され，卒後教育小委員会，生涯教育小委員会を統合して卒後・生涯教育小委員会とすること，教育リソース事業小委員会が置かれたことが説明された．
7　役員等選出について
①理事選出について（資料　P37，2012 理事選挙報告資料）
　選挙管理委員会委員長の内野名誉会員から，資料に基づき 2012 年理事選挙の実施状況について報告があった．選挙管理委員会は各支部より 1 名の委員を出していただいた．選挙は，立候補者 28 名のうち 20 名の理事を WEB 選挙投票システムにより選出した．実際には候補者がもう一人いたが，立候補の手続きが締め切りに遅れたため，選挙管理委員会で審議の結果，立候補を許可しないこととなった．2012 年 1 月 6 日に公示，2 月 16 日立候補の締め切りがあり，3 月 6 日に立候補者が公示された．4 月 6 日より 4 月 20 日にかけて投票が行われ 4 月 23 日に開票，当選者に郵送にて通知がなされた．5 月 7 日まで締め切りの不服審査申し立てを待った上，20 名の理事当選者が確定された．選挙結果公示に関するアンケート調査結果として，当選結果の公表について公表すべきだとした意見は 75.5％ にのぼったが，実際に公表すべき内容については当選者及び次点者が 26.2%，当選者のみが 10.9％，候補者全員が 29.8％ で，選挙管理委員会での審議の結果，全国区は当選者を含めて 3 位まで，地方区では，当選者と次点者が公表されることとなった．選挙結果として当選者，次点者一覧が示され，承認された．地方会支部の次点者には，繰り上げ当選の該当者はいなかった．当選者のうち中野理事の任期は後 1 年であるので，後任は次点者のなかから東海大学の吉井教授が上がることになる．
　その後選挙に関する諸問題について選挙管理委員会での検討結果が説明され，承認された．全体として WEB 選挙投票システムは大変よく機能し，事務的にも大きな問題はなかったが，候補者決定が総会の直前になり，当選からの期間が短い点が問題で，不服申立ての期間も考えるとぎりぎりになってしまう，できれば 3 月までに投票を終えて既に投票結果が確定しているのが望ましいとのことであった．これに対して池田事務長からは，支部枠当選があるため，支部を超えて異動する場合があることを考慮して 4 月に選挙することになった，との説明がなされた．これについて，実際上は代議員の方はほとんど支部を変わることがないのではないか，という意見も出された．投票の勧誘に不適切な活動があったことも指摘された．
②監事選出について（資料なし）
　水澤代表理事から，葛原監事の一期目の任期（2 年間）が終了したが，もう一期続けていただきたいとの提案がなされ，承認された．
8　学術大会運営について（日本神経学会学術大会関係資料，資料　P67）
　水澤代表理事から，資料に基づき，3/8，4/13 の学術大会運営委員会で審議した学術大会の運営のあり方に関するまとめについて報告があり，学術大会の運営を学会本体が行っていく姿勢が説明され，各理事に内容をよく確認していただき意見を出してほしいとのことであった．大会期間，開催地，一般演題，口演などの発表時間，学会賞，学術大会の構成，企業との共催セミナー，

コメディカル向けプログラム，国際プログラム，市民啓発，学生・初期研修医プログラム，展示プログラム，社交プログラム，参加費，運営，学会の国際化，財務などについての方針が説明された．主な変更点としては，今後抄録の修正は原則としない代わり，演題の締め切りもできるだけ遅くすることが説明された．学術大会の財務を担当する財務小委員会（仮称）を設けるが，活動内容については引き続き検討するとのことであった．プログラムについても学術（研究）プログラムと教育プログラムについてわけて詳細に吟味する予定である．

また28領域別の第54回学術大会学術委員の案が提示され，承認された．今後のスケジュールについては，5月25日の学術大会終了後に顔合わせをして，やり方などについてアイデアを出していただき，学術大会運営委員会と相談しつつ実施していく予定であることが報告された．印刷ミスの修正とともに様々な意見交換が行われた．

9　任意団体解散について（資料　P71）

水澤代表理事から，資料に基づき任意団体の資産を一般社団法人に寄付する件および任意団体を解散することについて，また決議後の手続きについて説明があり，承認された．

10　日本神経学会賞および楢林賞受賞者について（資料　P72）

水澤代表理事から，資料に基づき平成24年度の日本神経学会賞および楢林賞の受賞者が改めて報告された．

11　各種委員会報告

①編集委員会（資料　P75）

編集委員会委員長の中野理事から，資料に基づき臨床神経学に関する平成23年度の投稿状況，電子ジャーナル化に関するアンケート調査結果などについて報告があり，承認された．投稿数は平成23年度は158編，採択数は98編で，採択率は78%であった．最近数年投稿数の減少がみられたが，平成23年度はまたもとの水準に戻った．これは投稿がしやすくなったことと，査読委員に丁寧で教育的な査読をしていただいているおかげであることが説明された．また臨床神経学については1―10号の完全電子化を3年後を目途に行なっていること，電子化後各号の電子目次をメールにて配信の予定であることなどが説明された．また臨床神経学完全電子化のアンケート調査結果，編集委員会に寄せられた意見メール・御礼のメールなどについても紹介があった．

②英文誌編集委員会（英文誌編集委員会関係資料）

英文誌編集委員会委員長の辻省次理事から，資料に基づき英文機関誌の出版計画について報告があった．発刊は2013年1月となる予定で，8月18日から原稿募集の予定であること，英文誌名はNeurology and Clinical Neuroscience（NCN）となること，国内外のEditorial boardのメンバーについても紹介があった．Reviewerは2週間ほどで審査結果を返すようにしていただき，expedited publicationも行うことができるようにしたいとのことであった．理事には原著，総説など論文の投稿をお願いしたいとの依頼があった．

③専門医認定委員会・認定更新小委員会（資料　P87）

専門医認定委員会委員長の西澤理事から，資料に基づき平成23年度の専門医試験の結果，平成24年度の予定等について報告があった．受験者数182名，第二次試験からの受験者11名に対し，第二次試験後の合格者145名（合格率74.2%）で，例年通りの合格率であった．第38回専門医試験は第一次試験を6月16日（土）に，第二次試験を7月14日（土）に行なう予定である．専門医認定機構での専門医試験としては，次年度が最後の試験になる見込みである．

専門医認定更新小委員長の山本理事から，資料に基づき2012年度の専門医認定更新の状況について報告があった．更新対象者は1813人であり，このうち1658名が単位をクリアしている．資格停止期間中の会員は71名，うち8人（6人が行方不明，2名が連絡がついた）が3年を経過しており，資格喪失となる見込みである．

④施設認定委員会（資料　P91）

施設認定委員長の中島理事から，資料に基づき，2012年の施設認定および指導医の認定状況等について報告があった．平成24年度指導医内定者は配布された指導医名簿の通りで，合計109名が承認されたこと，H26年より始まる予定の指導医更新手続きについて，別紙書式を予定しており，更新料として1万円を予定している旨報告があり，承認された．

施設認定については，資料P93の一覧表にあるような申請があったが（教育施設　173件，准教育施設　92件，教育関連施設　27件，辞退　9件），2施設について教育施設の申請を准教育施設に区分変更した他は，申請のまま承認された．仮認定制度については，本年度4施設の申請があり，いずれも准教育施設として仮認定された．この他，教育施設のあり方，研修プログラム，モデルカリキュラムのあり方などについて，委員会で検討中である．モデルカリキュラムについてはミニマムリクアイアメントの認識を更に高める必要があり，活動していくとのことであった．

⑤診療向上委員会（資料　P97）

診療向上委員会委員長の内山理事から，資料に基づき平成24年度診療報酬改定要望に関する対応状況等，同委員会の活動状況について報告があった．平成23年7月に医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の要望書を提出したこと，厚生労働省保健局通知として適応外使用がみとめられたこと（資料P99参照），平成24年度診療報酬改定が発表されたこと，社会保険診療報酬支払基金でパーキンソン病およびレビー小体病におけるMIBGシンチグラムが承認されたこと，超重症児（者）・准超重症児（者）入院加算復活の要望書を提出したこと，髄液タウ蛋白・リン酸化タウ蛋白測定要望書を作成したことが報告された．超重症児（者），准超重症児（者）入院加算については，要望書を提出したものの，厚生労働省もなかなか認めてくれないので，神経難病に特化した形で通してもらうようにする見込みである．

⑥教育委員会（生涯教育委員会，卒後教育小委員会，卒前・初期臨床研修教育小委員会）

（資料　P105，107）

教育委員長の吉良理事から，資料に基づき教育委員会の改組があったこと（卒前・初期臨床研修教育小委員会，卒後・生涯教

育小委員会，教育リソース小委員会を設置）教育コンテンツ配信事業，教育セミナーの実施状況等について報告があった．また平成24年3月に神経内科教育を担当している部門に対して，神経内科卒前・卒後教育実態調査を実施し，大学での実態を調査しているとのことであった．神経学的診察の教育DVDの販売については丸善からの販売を継続したいとのことであった．初期臨床研修における神経内科研修の充実に関して，臨床研修指定病院の初期臨床研修教育責任者にお願いの手紙を送る予定であることも報告された．またハンズオンなど教育セミナーで何回も講演していただいている先生をexcellent teacherとして表彰したいこと，教育委員会にコメディカル教育小委員会をつくっていく予定であることが報告された．

卒後教育小委員会委員長の中野理事から，資料に基づき第53回学術大会時の卒後教育セミナー計画について報告があった．

⑦国際対応委員会（国際対応委員会関係資料）

国際対応委員会委員長の高橋理事から，2017WCNの招致活動等について報告があった．来年3月に実際の立候補が行われる予定である．日韓は確実に立候補する予定であるが，この他シンガポール，インド，中国の計5か国が立候補する見込みとの情報がある．AOCN開催に合わせてメルボルンで立候補国が協議を行う予定であり，日本としてはアジアの神経学会全体を発展させることを目指して立候補するが，1981年以来日本では第2回目の開催にあたるため厳しい戦いになると思われる．AOCNにおいてブースを設置し（6/3）WCNの招致活動を行う予定で，神経学会会員が常駐する必要があるが，候補者を国際対応委員会幹事の松本先生まで推薦してほしいとのことであった．官公庁の援助もあるというアピールをしたほうがよいという意見も出された．招致活動用のプレゼンテーション資料についても説明があった．

⑧用語委員会（資料・用語委員会から）

河村用語委員会委員長から，ICD-11への対応状況等について報告があった．改訂第四版の出版はもう少し後になる予定であるが，日本医学会の医学用語辞典との整合性をとることは，辻省次理事が医学用語委員会のメンバーでもあるため，問題ないと考えられる旨報告があった．また厚生労働省社会保障審議会統計分科会　疾病，傷病，および死因分類専門委員に玉岡委員が就任し，本委員会副委員長も務めることが報告された．ICD-11改訂作業のほとんどはWHO neurology TAG（中瀬委員）で実施されていくが，ほとんどWEB上の作業となることが報告された．神経学用語集第3版は文光堂ホームページに掲示することを考えたが，むしろ神経学会ホームページ（会員専用ページ）に掲示したほうが適切かもしれないとのことであった．

⑨広報委員会（広報委員会議題）

広報委員会委員長の佐古田理事より，平成24年度の広報委員会の活動計画等について報告があった．神経内科とは何か，という冊子などを作成して啓発活動を行う予定であること，神経内科に興味を持ってくれる人を増やし，神経内科講座のない大学に講座を新設するように働きかけるような活動を行っていくことなどが報告された．

⑩ガイドライン統括委員会（日本神経学会ガイドライン統括委員会関係資料，資料　P111-113）

ガイドライン統括委員会委員長の辻貞俊理事から，資料に基づきガイドライン作成計画，既出版分の販売状況，診療ガイドライン作成に関する申し合わせ等について報告があった．新診療ガイドライン委員会委員の承認が求められ，承認された．24年度のガイドライン作成委員会開催回数を抑制し，予算を節減したい旨説明があった．ガイドラインについては継続性，統一性があったほうがよいということでワーキンググループを作る方針であることが報告された．

⑪IT化推進委員会（資料　P117）

IT化推進委員会委員長の阿部理事から，資料に基づき会員マイページの運用開始，災害医療支援プログラム作成状況等について報告があり，承認された．会員のメールアドレスの登録が70%に達していること，マイページを開設し，2012年6月に運用開始予定であること，神経学会災害支援プログラム策定し現在HPにuploadをしてpublic commentを募集中であること，今後神経内科疾患に特化した支援に重点を置いて5月より具体的な活動に移っていく予定であることが報告された．

12　日本専門医評価・認定機構報告について（資料　P123）

水澤代表理事から，資料に基づき日本専門医評価・認定機構が審議している新組織案について報告があり，承認された．

13　第54回学術大会大会長報告について

第54回学術大会大会長の水澤代表理事より第54回日本神経学会学術大会の準備状況について報告があった．また，学術大会運営委員会で審議された方針を具体化していく予定であることが説明された．2013年5月29日（水）より6月1日（土）まで東京国際フォーラムにて行われる予定である．

14　第55回学術大会大会長報告について

第55回学術大会大会長の吉良理事より第55回日本神経学会学術大会について2014年5月29日（木）～31（土）の日程で行う予定であることが報告された．

15　各種委員会委員長ならびに委員会新設について

水澤代表理事から，日本神経学会各種委員会委員長一覧に基づき，この学術大会終了後に任期満了となる各種委員会委員長の後任と，これまで理事会で検討してきた課題に具体的に対処するため，以下のような委員会新設計画について説明があり，承認された．

・倫理規範・会員制度検討委員会（仮称）を作り，倫理規範を含むprofessionalismと法人会員を含む会員制度の見直しについて検討する予定で，委員長は西澤理事が就任することとなった．
・女性医師を支援する委員会として，北里大学の荻野代議員，押木内科・神経内科医院の永井博子会員が中心となり，キャリア形成促進ワーキンググループを設立する．男性についても教職・勤務医・病院の医師としてキャリアをどのように促進形成していくかなどについて検討する予定である．ワーキンググループメンバーとして千葉大学神経内科　三澤園子先生，近畿大学神経内科　宮本勝一先生が加わったことが報告され，承認された．

・広報委員会は梶理事を，倫理・審査委員会は佐古田現理事を委員長とすることが提案され承認された．また代議員選挙管理委員会には，委員長として服部理事が推薦され，承認された．ガイドライン統括委員会は，辻貞俊委員長に継続していただく予定である．臨床医部会設置準備委員会（仮称）についても，山本理事を委員長としワーキンググループを作って検討を始める予定である．臨床部会という名称については，大学病院は臨床をしていないような印象を与えるので，病院・診療所委員会のような名称を考えたほうがよいのではないか，という意見も出された．

16　その他

次回理事会開催予定は下記の日時で行われる予定である．

平成 24 年 7 月 21 日（土）12：30〜16：00

日本神経学会事務局会議室

第 53 回学術大会時　社員総会議事要旨

日　時：平成 24 年 5 月 22 日（火）16：30〜18：30

場　所：東京国際フォーラム　ホール B7

○　議事に入る前に

1　出席状況確認

議長の鈴木第 53 回神経学会学術大会長から，出席状況の報告があった．委任状提出者数は 180 人，本日出席者数は 197 人，出席人数（委任状含む）は，合計 377 人で，定足数（代議員数 548 人の 2 分の 1，274 人）を満たしている旨報告があった．

2　陪席者紹介

鈴木議長から，以下の陪席者の紹介があり了承された．

選挙管理委員会委員長　内野　誠

小村司法書士事務所　　中村拓雄

アスト税理士法人　　前川修満，小飯田浩伸（敬称略）

3　資料の確認

鈴木議長から，以下の配布資料について説明と確認があった．

（1）第 53 回日本神経学会学術大会時理事会・社員総会資料

（2）2011 年度日本神経学会指導医内定一覧

○　議　事

1.　会員状況報告

水澤代表理事から，平成 24 年 3 月 31 日現在の会員状況は 8852 名で，去年の 8752 名に比較すると，102 名の会員の増加があったことが報告された．第 52 回学術大会以降の逝去者について報告があり，起立の上，黙祷がささげられた．

（議題）

1　平成 23 事業報告について（資料　P10）

水澤代表理事から，資料に基づき平成 23 年度に実施した事業について報告があった．第 52 回日本神経学会学術大会を開催したこと，学術大会の運営，地方会開催，臨床神経学の刊行，診療ガイドラインを策定したこと，市民公開講座，神経内科学教室の整備への取り組み，日本神経学会賞，楢林賞の受賞者を決定したこと，専門医・教育施設の認定を行ったこと，診療向上のための会員を対象とした教育活動について，生涯教育講演会，卒後教育事業，卒前・初期臨床教育事業をおこなったこと，診療報酬改定への取り組みを行ったこと，新薬承認審査の促進等に関する要望活動を行ったこと，国際協力として AAN ならびに東アジア神経学フォーラム（EANF）に関連する事業をおこなったこと，WCN2017 の招致活動を開始したこと，COI の自己申告を行っていること，会員管理としてマイページを導入したこと，東北地方太平洋沖地震への対応，理事選挙，学術大会長の選出，地方会支部運営細則の制定を行ったこと，などが報告された．

2　平成 23 年度決算について（資料　P11）

財務委員会委員長の辻省次理事から，資料に基づき平成 23 年度決算について説明があった．事業収入としては予算額が 3 億 9670 万円，実績額が 4 億 4480 万円で，約 4800 万円の収入増があったこと，事業支出も 5910 万円の節約がなされ，全体として 1 億円を超える繰越額が生じたが，これは平成 23 年度の特殊状況を反映したもので今後は楽観できないことが説明された．収入面では名古屋での第 52 回学術大会で 4100 万円の黒字であったこと，会費収入が順調に推移していること，認定医更新料が増える年度にあたっていたこと，ガイドラインの印税率が辻貞俊理事の努力により 10% → 12% に上がったことに伴い，印税収入が増加したこと，支出面においては，ガイドライン作成事業の経費が節減により減ったこと，専門医制度事業でも節約がなされたことなどの要因が報告された．一方管理費は，学会事業を事務局主導にすることなど事務局機能の強化のために増加した．また広告会社の丹水舎の貸し倒れに伴い，800 万円を超える損失があったことが報告された．

アスト税理士法人前川会計士から，決算内容について，会計処理の手続きは学術研究団体として妥当であり，財務状態，同会

計年度の運営成績を適正に表示していることが認められるとの報告があった.

3　監事監査報告について（資料　P25）

葛原監事から，資料に基づき，清水監事と行った平成23年度の会計と運営状況に関して，法人の業務が適正に行われたという監査結果が報告された.

事業活動支出の管理料のうち手数料が大変に高額であり，この内訳について説明が求められた．池田事務長からは，これは会費納入に伴う銀行振り込み手数料であるが，具体的な数値についてはきちんと調査して報告したいとのことであった．また，丹水社の倒産に伴う不払いについて，大変高額であり，これについても説明が求められた．またその状態を知りながらそのままにしていたアスト会計事務所の前川会計士の責任がただされた．辻財務委員長からは，丹水社に対しては，訴訟を起こし，債権回収の努力がつづけられていたが，丹水社の倒産にともなって回収不能になったことが報告された．前川会計士からは，債権の回収にあたって，引当金の試算をする合理的根拠が欠けていたため，特には処理をおこなっていなかった，しかし対応に問題はなかったと考える，との回答があった.

4　平成24年度事業計画（案）について（資料　P14）

水澤代表理事から，資料に基づき平成24年度の事業計画案について説明があり，承認された．第53回日本神経学会学術大会を開催・運営すること，地方会を開催すること，臨床神経学の刊行（電子ジャーナル化，電子目次の配信），英文機関誌の発行，診療ガイドラインを策定すること，市民公開講座，広報活動，神経内科学教室の整備への取り組みを引き続き行うこと，研究奨励として日本神経学会賞，楢林賞の受賞者を決定すること，専門医・教育施設の認定をおこなうこと，診療向上のための会員を対象とした教育活動について，生涯教育講演会，卒後教育事業，卒前・初期臨床教育事業を行うこと，診療報酬改定への取り組みを行うこと，新薬承認審査の促進等に関する要望活動を行うこと，国際協力としてAANならびに東アジア神経学フォーラム（EANF）に関連する事業を行うこと，WCN2017の招致活動を行うこと，会員管理としてマイページを導入し本年6月より運用すること，災害時医療支援プログラムを策定し実行に移していくこと，理事選挙・2回目の代議員選挙を行うこと，などが報告された.

事業計画（案）へのコメントとして，近年神経内科は入会会員数が少なく，学会を挙げて神経内科の人気をあげるような活動をしていかないと，このままでは神経内科が衰退していく危機的状況なのではないか，という意見が出された．他の代議員からも，現場の印象として神経内科の入局者数が減っている，その一つの要因は脳卒中科が単独の講座としてできていることもある，若い人たちは急性期の脳血管障害をやりたい人が多く，多くの若い人が脳卒中科に流れてしまう，その一方で脳卒中は診られても局在診断があやふやという状況も生じてしまう可能性もあり，神経内科でも脳卒中を包括的にみていくという姿勢を示すべきだ，という意見も出された．水澤代表理事からは，学会としてもその問題は強く認識しており，神経内科についての広報活動を進めていること，出席の方々にも神経内科への入局者数を増やすようにご協力をお願いしたい旨，説明があった.

5　平成24年度予算（案）について（資料　P29）

財務委員会委員長の辻省次理事から，平成24年度収支予算（案）について説明があり，承認された．収入は3億9868万円，支出は3億9123万円を見こんでおり，平成23年度と比較すると予備費が4027万円減少する見込みである．その理由として，一般収入が前年度に比較して認定医更新料が減少するため，1000万円減少する見込みであること，支出では臨床神経学の11月号（学術大会号）において論文数が増加するため発刊の費用が増加すること，生涯教育事業や教育コンテンツ配信事業など教育関係にかかる予算が膨らむことなどから，学術大会の余剰金を加えてもプラスマイナス0の状態であることが説明された．その上，英文誌刊行や事務局機能強化に伴う支出の増加も予想される．消費税が上がる可能性も考えると全体としては大変厳しい状況である．収入をアップさせるか，節減をする対策が必要となるが，会員数の増加，企業との連携を深め法人会員を増やす，認定医登録更新料をあげるなどの対策が考えられることが報告された．また，教育コンテンツ配信事業についてもアクセスの料金を設定することにより，収益をあげることが考えられる旨報告された.

認定医登録更新料を上げる場合は，なぜ上げるのかその理由をはっきりさせる必要があるという意見が出された．辻委員長からは，教育事業についてももう少し受益者負担を増やすことも考えられるが参加者は負担増を嫌うので，一般病院の医師などのアンケートを行い，その調査結果を踏まえて来年どうするかを決めていきたいとのことであった.

6　役員等選出について

①理事選出について（資料　P37）

内野選挙管理委員長から，資料に基づき，2012年理事選挙の実施状況について報告があった．2012年1月6日に公示を行い，2月17日に立候補の締め切り，3月6日に立候補者の公示，4月6日-20日に投票が行われ，4月22日に開票が行われた．不服申し立ての締め切りを5月7日まで待ち，20名の当選者が確定した．全国区では当選者を含めて上位3名が発表され，地方区では当選者に加え次点者を発表した．地方会支部枠については次点者からの繰り上げ当選はなかった．20名の当選者および3名の次点者のリストが発表され，承認された.

立候補者とその得票数については，投票者は結果について知る権利があり，次点者や3位までではなく全候補者について公表すべきではないか，という質問がなされた．これに対して内野委員長からは，代議員のアンケートの結果，3/4の人は公表を望んでいるものの，公表を望んだ人の大多数が全員の公表を望んでいないことから，全候補者について公表することは代議員の総意とはみなさなかった，との回答であった．一方，公表を望んでいない人も多くいたので，公表しなかったことはよいが，選挙の度に変わってしまうのは望ましくないので，きちんと公表の仕方について決定すべきだ，という意見も出された．審議の結果，選挙により当選した20名を理事に選任することについて承認が得られた．中野理事については1年で退任となるため，来年は次点の東海大学の吉井教授が理事になる見込みであることが報告された.

②監事選出について
　水澤代表理事から，葛原監事に関しては監事として一期目（2年間）が終了したが，もう一期続けていただきたいとの提案があり，承認された．
③代表理事選出について
　鈴木議長から，理事選出承認後，代表理事には水澤理事が再任される予定である旨，報告があり承認された．水澤代表理事から，これは今朝行われた新理事候補者会議において代表理事予定者を選出したことによることが説明された．
④第56回および第57回学術大会長について（資料なし）
　水澤代表理事から，4月13日の理事会で，新しい方法により立候補，プレゼンテーションを行った上で投票を行い，第56回，第57回の学術大会長は下記のように決定したことが報告された．
　第56回（2015年）学術大会　西澤正豊　教授（新潟大学）
　第57回（2016年）学術大会　梶　龍兒　教授（徳島大学）
7　名誉会員推薦について（資料　P40）
　水澤代表理事から，資料に基づき日本人1名，外国人3名を名誉会員としたい旨提案があった．日本人名誉会員推薦基準（2000年5月23日理事会承認事項）について説明があった．また外国人の名誉会員については年齢の基準は含めないが，今後，日本神経学会の発展に大きく寄与すると思われる活動をしている者とすることが説明された．日本人では，辻貞俊産業医科大学教授，外国人ではInnsbruck Medical UniversityのWerner Poewe教授（推薦者：山本光利理事），Washington大学医学部のGregory J del Zoppo教授（推薦者：鈴木則宏教授），Case Medical CenterのHans O Lüders教授（推薦者：辻貞俊理事）の3名が推薦され，承認された．
（日本人名誉会員推薦基準）
①年齢が65歳以上であること
②理事の経験
③常任委員会委員長1期以上の経験
　上記の①，②　または　①，③に該当する者
　鈴木議長より今日選任した役員を含めて，本学会の役職員一覧を会場内に掲示しているので，閲覧していただくよう案内があった．
8　定款等改正について
①一般社団法人日本神経学会定款改正について（資料　P41）
　水澤代表理事から，資料に基づき，新入会会員の推薦者を指導医に拡充すること，理事の定年と業務従事期間を明示すること，学術大会の名称に統一することなど，定款の一部改正案について提案があり，承認された．
②一般社団法人日本神経学会役員選出細則改正について（資料　P53）
　水澤代表理事から，資料に基づき理事が欠員になった場合全国の次点者から選任するための改正案について，内容的には変更がないものの，より明確に記載がなされた第20条第2項の改正案について説明があり，承認された．
③一般社団法人日本神経学会利益相反（COI）に関する運用指針の改正について（資料　P59）
　水澤代表理事から，利益相反（COI）に関する運用指針の改正案について，これまで指針は産学連携による臨床研究が対象になっていたが，今回は基礎研究を含めた医学研究全般が対象になっていること，奨学寄付金に関する項目にいくつかの改訂があったことが説明され，承認された．
9　学術大会運営について（資料　P67）
　水澤代表理事から，資料に基づき学術大会運営委員会で審議した学術大会の運営のあり方に関するまとめについて報告があり，学術大会の運営を学会本体が行っていく姿勢が説明され，承認された．主な点としては，今後抄録の修正は原則としない代わり，演題の締め切りもできるだけ遅くすることが説明された．プログラムについても学術（研究）プログラムと教育プログラムについてわけていく予定であることが説明された．
10　任意団体解散について（資料　P71）
　水澤代表理事から，資料に基づき任意団体の資産を一般社団法人に寄付する件および任意団体を解散することについて，また決議後の手続きについて説明があり，承認された．
11　日本神経学会賞および楢林賞受賞者について（資料　P72）
　水澤代表理事から，資料に基づき平成24年度の日本神経学会賞および楢林賞の受賞者が報告された．また昨年の受賞者の招待講演を，5月23日（水）13：30からホールAで行う旨，案内があった．
12　各種委員会報告
①編集委員会（資料　P75）
　編集委員会委員長の中野理事から，資料に基づき臨床神経学に関する平成23年度の投稿状況，電子ジャーナル化に関するアンケート調査結果などについて報告があり，承認された．投稿数は平成23年度は158編，採択数は98編で，採択率は78%であった．最近数年投稿数の減少がみられたが，平成23年度はまたもとの水準に戻った．これは投稿がしやすくなったことと，査読委員に丁寧で教育的な査読をしていただいているおかげであることが説明された．また臨床神経学については1〜10号の完全電子化を3年後を目途に行なっていること，電子化後各号の電子目次をメールにて配信の予定であることなどが説明された．また臨床神経学完全電子化のアンケート調査結果，編集委員会に寄せられた意見メール・御礼のメールなどについても紹介があった．

②英文誌編集委員会（英文誌編集委員会関係資料）

英文誌編集委員会委員長の辻省次理事から，資料に基づき英文機関誌の出版計画について報告があった．発刊は2013年1月となる予定で，8月18日から原稿募集の予定であること，英文誌名はNeurology and Clinical Neuroscience（NCN）となること，国内外のEditorial boardのメンバーについても紹介があった．Reviewerは2週間ほどで審査結果を返すようにしていただき，expedited publicationも行うことができるようにしたいとのことであった．理事には原著，総説など論文の投稿をお願いしたいとの依頼があった．

③専門医認定委員会・認定更新小委員会（資料　P87）

専門医認定委員会委員長の西澤理事から，資料に基づき平成23年度の専門医試験の結果，平成24年度の予定等について報告があった．受験者数182名，第二次試験からの受験者11名に対し，第二次試験後の合格者145名（合格率74.2%）で，例年通りの合格率であった．第38回専門医試験は第一次試験を6月16日（土）に，第二次試験を7月14日（土）に行なう予定である．専門医認定機構での専門医試験としては，次年度が最後の試験になる見込みである．

専門医認定更新小委員長の山本理事から，資料に基づき2012年度の専門医認定更新の状況について報告があった．更新対象者は1813人であり，このうち1658名が単位をクリアしている．資格停止期間中の会員は71名，うち8人（6人が行方不明，2名が連絡がついた）が3年を経過しており，資格喪失となる見込みである．

④施設認定委員会（資料　P91）

施設認定委員会委員長の中島理事から，資料に基づき，2012年の施設認定および指導医の認定状況等について報告があった．平成24年度指導医内定者は配布された指導医名簿の通りで，合計109名が承認されたこと，H26年より始まる予定の指導医更新手続きについて，別紙書式を予定しており，更新料として1万円を予定している旨報告があり，承認された．

施設認定については，資料P93の一覧表にあるような申請があったが（教育施設　173件，准教育施設　92件，教育関連施設　27件，辞退　9件），2施設について教育施設の申請を准教育施設に区分変更した他は，申請のまま承認された．仮認定制度については，本年度4施設の申請があり，いずれも准教育施設として仮認定された．この他，教育施設のあり方，研修プログラム，モデルカリキュラムのあり方などについて，委員会で検討中である．モデルカリキュラムについてはミニマムリクアイアメントの認識を更に高める必要があり，活動していくとのことであった．

⑤診療向上委員会（資料　P97）

診療向上委員会委員長の内山理事から，資料に基づき平成24年度診療報酬改定要望に関する対応状況等，同委員会の活動状況について報告があった．平成23年7月に医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬の要望書を提出したこと，厚生労働省保健局通知として適応外使用がみとめられたこと（資料P99参照），平成24年度診療報酬改定が発表されたこと，社会保険診療報酬支払基金でパーキンソン病およびレビー小体病におけるMIBGシンチグラムが承認されたこと，超重症児（者）・准超重症児（者）入院加算復活の要望書を提出したこと，髄液タウ蛋白・リン酸化タウ蛋白測定要望書を作成したことが報告された．超重症児（者），准超重症児（者）入院加算については，要望書を提出したものの，厚生労働省もなかなか認めてくれないので，神経難病に特化した形で通してもらうようにする見込みである．

パーキンソン病およびレビー小体病におけるMIBGシンチグラムについては，支払い基金が独自に認めたものなのか，診断時にMIBGシンチをやってよいということか，という質問があった．診療向上委員長の内山理事からは，今回は前回と異なり全国的に認められたが，厚生労働省で認められたかどうかは確認したいとのことであった．

⑥教育委員会（生涯教育委員会，卒後教育小委員会，卒前・初期臨床研修教育小委員会）（資料　P105，107）

教育委員会委員長の吉良理事から，資料に基づき教育委員会の改組があったこと（卒前・初期臨床研修教育小委員会，卒後・生涯教育小委員会，教育リソース小委員会を設置）教育コンテンツ配信事業，教育セミナーの実施状況等について報告があった．また平成24年3月に神経内科教育を担当している部門に対して，神経内科卒前・卒後教育実態調査を実施し，大学での実態を調査しているとのことであった．神経学的診察の教育DVDの販売については丸善からの販売を継続したいとのことであった．初期臨床研修における神経内科研修の充実に関して，臨床研修指定病院の初期臨床研修教育責任者にお願いの手紙を送る予定であることも報告された．またハンズオンなど教育セミナーで何回も講演していただいている先生をexcellent teacherとして表彰したいこと，教育委員会にコメディカル教育小委員会をつくっていく予定であることが報告された．

卒後教育小委員会委員長の中野理事から，資料に基づき第53回学術大会時の卒後教育セミナー計画について報告があった．

⑦国際対応委員会（資料なし）

高橋国際対応委員長から，2017WCNの招致活動等について報告があり，承認された．

⑧用語委員会（資料・用語委員会から）

河村用語委員会委員長から，ICD-11への対応状況等について報告があった．改訂第四版の出版はもう少し後になる予定であるが，日本医学会の医学用語辞典との整合性をとることは，辻省次理事が医学用語委員会のメンバーでもあるため，問題ないと考えられる旨報告があった．また厚生労働省社会保障審議会統計分科会　疾病，傷病，および死因分類専門委員に玉岡委員が就任し，本委員会副委員長も務めることが報告された．ICD-11改訂作業のほとんどはWHO neurology TAG（中瀬委員）で実施されていくが，ほとんどWEB上の作業となることが報告された．神経学用語集第3版は文光堂ホームページに掲示することを考えたが，むしろ神経学会ホームページ（会員専用ページ）に掲示したほうが適切かもしれないとのことであった．

⑨広報委員会（資料なし）

広報委員会委員長の佐古田理事が途中退席したため，水澤代表理事より平成24年度の広報委員会の活動計画等について報告があった．神経内科とは何か，という冊子などを作成して啓発活動を行う予定であること，神経内科に興味を持ってくれる人を

増やし，神経内科講座のない大学に講座を新設するように働きかけるような活動を行っていくことなどが報告された．

⑩ ガイドライン統括委員会（資料　P111-113）

ガイドライン統括委員会委員長の辻貞俊理事から，資料に基づきガイドライン作成計画，既出版分の販売状況，診療ガイドライン作成に関する申し合わせ等について報告があった．来年学術大会時までに7つの新しい診療ガイドラインを策定する予定であること（CIDP/MMN，ギラン・バレー，フィッシャー症候群，デュシェンヌ型筋ジストロフィー，細菌性髄膜炎，重症筋無力症，頭痛），ガイドラインの評価としてアンケート調査を行なっていく予定であること，治療ガイドライン2010，2011の追補版とQ＆Aを作成する予定であること，認知症治療ガイドラインの簡略版が出版され好評であること，ガイドラインは今後も継続して策定し，継続性・統一性を大切にしていきたいとのことであった．

⑪ IT化推進委員会（資料　P117）

IT化推進委員会委員長の阿部理事から，資料に基づき会員マイページの運用開始，災害医療支援プログラム作成状況等について報告があり，承認された．会員のメールアドレスの登録が70%にアップしていること，マイページを開設し，2012年6月に運用開始予定であること，神経学会災害支援プログラム策定し現在HPにuploadをしてpublic commentを募集中であること，今後神経内科疾患に特化した支援に重点を置いて5月より具体的な活動に移っていく予定であることが報告された．

13　日本専門医評価・認定機構報告について（資料　P123）

水澤代表理事から，資料に基づき日本専門医評価・認定機構が審議している日本専門医機構（仮称）の新組織案について報告があり，承認された．

14　神経研究振興基金報告について

神経研究振興基金運営委員会委員長の岩田名誉会員から，平成23年度の神経研究振興基金の決算について報告があった．この基金は1981年日本でWCNが行われたときの寄付金の余剰金で，WCNを再び日本に誘致するときなどに使う目的で作られた基金であり，昨年度末で3700万円程度の残額があり，債券で保有されているとのことである．今年度はWFNに本学会の代表が出張する際の旅費，EANFで講演するために出席した先生の出張旅費の支出があった．今後はWCNの誘致活動にお金がかかると思われるため，少し緊縮財政にする必要があることが報告された．

15　第54回学術大会大会長報告について

第54回学術大会大会長の水澤代表理事より第54回日本神経学会学術大会の準備状況について報告があった．また，学術大会運営委員会で審議された方針を具体化していく予定であることが説明された．2013年5月29日（水）より6月1日（土）まで東京国際フォーラムにて行われる予定である．

16　第55回学術大会大会長報告について

第55回学術大会大会長の吉良理事より第55回日本神経学会学術大会について2014年5月29日（木）～31（土）の日程で行う予定であることが報告された．

17　その他

○議案終了後

1　名誉会員称号授与

水澤代表理事より，来場されている辻貞俊産業医科大学教授，Innsbruck Medical UniversityのWerner Poewe教授，Washington大学医学部のGregory J del Zoppo教授に名誉会員証が授与された．

2　最後に

第53回学術大会長の鈴木議長から学術大会開催についての挨拶があり，その後社員総会の終了を宣言した．

第38回日本神経学会専門医試験の講評

第38回日本神経学会専門医試験は166名が合格して終了しました．新規受験者の合格率は75%でした．

専門研修におけるミニマムリクアイアメントの策定を受けて，今回も筆記試験では必修，一般，症例の3領域に分けてそれぞれ100題が出題され，必修問題にはより高い正答率が求められました．また，症例サマリー10例についても査読が実施され，不適切と判定されたサマリーは，今回から修正と再提出が必要となりました．さらに今回から，責任指導医による研修内容の評価が必要となり，これらは面接試験に反映されています．

1）必修問題について

必修問題は80%の正答率を期待して出題しましたが，実際には66%でした．特に正答率が低かった設問は以下の通りです．

・棘下筋の徒手筋力テスト，・10-20電極法による電極位置，・ワクチンの副作用，・舞踏運動の特徴，・眼位と複視の関係，・運転免許の条件

この他，脳の血管支配領域や脳神経の走行など，基本的な神経解剖学が理解されていません．高次脳機能障害の症候に関する，また，てんかん治療薬の選択など神経疾患の治療薬にする基本的な知識が不足しています．筋生検や神経生検，また，筋電図や脳波検査の実際の経験があれば，平易なはずの問題ができていないことから，検査手技に関する研修不足が窺われます．また，ペナンブラ，ペルオキシソーム病，線維束性収縮，日本脳炎，くも膜下出血の症候，前頭側頭型認知症の症候，重症筋無力症，単純ヘルペス脳炎の脳波所見などに関する問題の正答率が50%以下でした．

2）一般問題について

一般問題の正答率は52%でした．特に正答率が低かった設問は以下の通りです．

・針筋電図の安静時活動，・Pick病や神経原線維変化の病理像，・頚椎症や脊髄空洞症の画像診断

この他，必修問題と同様ですが，三叉神経の走行など，基本的な神経解剖学が理解されていません．高次脳機能障害の症候に関する，また，てんかん，頭痛や排尿障害に対する薬物治療，ダビガトランなど神経疾患の治療薬に関する基本的な知識が不足しています．筋生検や神経生検，また，筋電図，誘発電位，脳波検査の実際の経験があれば，所見の解釈やアーチファクトなど，平易なはずの問題などができていないことから，検査手技の研修不足が窺われます．また，脳トキソプラズマ症，Wilson病，縁取り空胞を伴う遠位型ミオパチー，雷鳴頭痛，麻疹脳炎，Gerstmann-Straussler-Scheinker病，無セルロプラスミン血症，Rett症候群，ナルコレプシーなどに関する問題ができていませんでした．

3）症例問題について

症例問題の正答率は58%でした．特に正答率が低かった設問は以下の通りです．

・足根管症候群の症候，・腰椎椎間板ヘルニアのレベル診断，・多発性硬化症のMcDonald診断基準，・可逆性脳血管攣縮症候群，・胸腺腫の画像診断，・多系統萎縮症の病態

この他，必修問題と同様ですが，高次脳機能障害の症候に関する，また，パーキンソン病，筋無力症症候群に対する薬物治療など神経疾患の治療薬に関する基本的な知識が不足しています．また，むずむず脚症候群，多巣性運動ニューロパチー，血管迷走神経性失神，painful legs and moving toes，Becker型筋ジストロフィー，SMA1型，神経Behcet病，インフルエンザ脳症，Gilles de la Tourette症候群などに関する問題ができていませんでした．

4）面接試験について

面接試験では，神経学的診察法の実技に関する試験と，提出された症例サマリーに基づいて神経学の基本的知識に関する試問を実施しています．

面接官からは，神経学会として診察法に関するDVDを作成した効果があるという意見が多くありました．が，DVDに取り上げられていない手技や，末梢神経系，高次脳機能の評価などはよくできませんでした．腱反射の手技がうまくできない，痙攣と筋強剛の区別ができない，血管雑音を評価できないなどの指摘も多くありました．また，サマリーを基に質問しても，自分が書いたことを理解していない受験生が多いという意見が多くありました．サマリーに記載した以上は，その内容はきちんと説明できるように準備して下さい．

今回の試験の総括は以上の通りです．次年度以降の受験生の皆さんには，神経解剖学・生理学の基本的理解の上に立って，症候学や画像診断を学んでいただくように希望します．また指導医の先生方には，専門研修医に対して神経解剖学・生理学の基礎からご指導を宜しくお願い致します．

平成 24 年 7 月 25 日
日本神経学会専門医認定委員会
（文責　認定委員長　西澤　正豊）

〈会　告〉

平成 24 年度（第 38 回）日本神経学会専門医試験のご報告

日本神経学会　代表理事　　水澤　英洋
同　専門医認定委員会　委員長　西澤　正豊

平成 24 年度試験は，6 月 16 日に一次試験，7 月 14 日に二次試験を実施し，最終的に以下の 166 名を日本神経学会専門医試験の合格者として認定致しました．
本試験の実施にあたり，試験問題作成，試験監督，症例サマリーの査読および面接試験にご協力をいただいた方々のお名前を以下に掲げ，御礼に代えさせていただきます．

平成 24 年度日本神経学会専門医試験合格者：

青木淳哉
東文香
阿部包愛
荒川武蔵
荒木睦子
安藤功一
井浦とも
池上郁子
池口亮太郎
石川景一
石川正典
井泉瑠美子
伊藤敬志
稲葉明子
井上文
岩下達雄
岩波久威
上田美紀
植松絵里
上村麻衣子
上村昌寛
宇野田喜一
漆葉章典
大石渉
太田智大
大塚邦之
大友亮
岡田暁典
緒方英紀
長田純理
金子淳太郎
金子知香子
金藤秀治
金丸拓也
川西康太郎
桔梗英幸
岸谷融
貴田浩志
木下通亨
木村紀久
久保田昭洋
高坂雅之
小濱愛
駒ヶ嶺朋子
今野卓哉
雑賀玲子
齋藤光象
齊藤聡
斎藤朋子
齊藤智成
崎間洋邦
佐藤眞也
佐野輝典
佐村英里子
篠崎ゆかり
島田拓弥
島田佳明
清水和敬
清水崇宏
下野哲典
白藤法道
杉本太路
鈴木可奈子
鈴木将史
角南陽子
隅蔵大幸
清野祐輔
瀬川亜希子
大封昌子
髙井良樹
高石智
高嶋良太郎
田頭秀吾
髙橋由佳子
高橋良一
高吉宏幸
竹内亮子
武澤秀理
田島孝士
辰巳美晶
田中健一
田中弘二
田中智貴
田中信行
田中真生
樽野陽亮
塚本祐子
津田玲子
堤涼介
道傳整
徳永純
泊晋哉
冨田敦子
中田るか
永松清志郎
生田目禎子
成川真也
鳴海新介
西川敦子
西川智和
西嶌春生
西平淳子
西山修平
温井孝昌
沼沢祥行
祢津智久
野妻智嗣
野村誠
朴貴瑛
華園晃
馬場徹
濱野愛
林健太郎
林大輔
林有紀
原渉
東山雄一
樋口佳菜子
玄富翰
平野恒治

福岡卓也
藤井裕樹
藤岡哲平
富施敦仁
麓　直浩
古川貴大
堀内一宏
本田大祐
本間一成
前嶋伸哉
枡田智子
松井龍吉
松岡孝至
松川敬志
松平敬史
丸山俊一郎
丸山　元
三浦　健
三笠道太
三木康生
水野秀紀
水間敦士
宮川統爾
宮崎　雄
宮崎由道
宮地洋輔
向井智哉
村井智彦
村賀香名子
村松倫子
森谷祐介
八木拓也
安田千春
柳澤俊之
山川　勇
山口裕子
山田大介
山本大輔
由上登志郎
横井　聡
横井大知
横関明子
吉田亘佑
和座雅浩
渡邉　充
渡部理恵

以上　166　名
（50音順・敬称略）

平成24年度日本神経学会専門医試験にご協力をいただいた方々：

青木正志
赤松直樹
朝比奈正人
阿部康二
荒井元美
新井信隆
荒木信夫
有村公良
安藤哲朗
池田昭夫
池田研二
池田修一
石川　厚
石川欽也
石藏礼一
和泉唯信
市川博雄
伊藤嘉憲
糸山泰人
犬塚　貴
岩崎泰雄
上坂義和
上野　聡
植村健吾
魚住武則
宇川義一
内原俊記
内山真一郎
大越教夫
大澤美貴雄
大沼　歩
大野欽司
大場　洋
大矢　寧
岡　伸幸
尾方克久
岡本幸市
岡本浩一郎
小鹿幸生
尾田宣仁
尾野精一
海田賢一
柿田明美
梶　龍兒
片山隆行
加藤丈夫
金藤大三
亀井　聡
亀井　聡
苅田典生
川井　充
河村　満
菅　信一
神田　隆
岸田修二
北川一夫
北川泰久
木村和美
吉良潤一
日下博文
楠　進
熊本俊秀
栗田　正
栗山　勝
桑原　聡
幸原伸夫
郡山達男
古賀靖敏
小島重幸
小松本　悟
古和久典
齊藤祐子
斎藤加代子
坂井利行
佐々木秀直
佐々木彰一
佐々木　惇
佐藤典子
佐藤正之
佐藤健太
塩屋敬一
柴田亮行
清水貴子
清水　潤
下濱　俊
城倉　健
東海林幹夫
杉江秀夫
砂田芳秀
園生雅弘
祖父江　元
高木繁治
高嶋　博
高橋牧郎
高橋良輔
瀧山嘉久
武田克彦
竹島多賀夫
田中惠子
田中耕太郎
田中　真
棚橋紀夫
玉岡　晃
千葉厚郎

千葉　進
辻　貞俊
辻　省次
寺江　聡
寺田一志
道勇　学
徳田隆彦
徳丸阿耶
戸田達史
飛松省三
冨本秀和
豊島　至
豊田一則
鳥居　剛
長尾毅彦
中川正法
中島健二
中野今治
中野　智
中村重信
中村雄作
西澤正豊
西野一三
根来　清
野川　茂
野村恭一
野村哲史
橋本洋一郎
長谷川泰弘
服部信孝
馬場正之
濱田潤一
林　由起子
樋口逸郎
平田幸一
平野照之
福井俊哉
福武敏夫
福永秀敏
藤岡俊樹
藤田浩司
藤村晴俊
藤原一男
古井英介
古川芳明
細矢光亮
松井　真
松尾秀徳
松原四郎
松本昌泰
三木健司
水澤英洋
水野裕二
南　正之
宮嶋裕明
宮本雅之
三輪英人
武藤多津郎
村田美穂
望月秀樹
本村政勝
森　悦朗
安田　斎
矢部一郎
山尾房枝
山口修平
山下博史
山田　猛
山田正仁
山本光利
山元敏正
山脇健盛
横田隆徳
吉井文均
吉川弘明
芳川浩男
吉田眞理
米田　誠
米田行宏
依藤史郎
若林孝一

以上　185名
（50音順・敬称略）

来年の平成25年度（第39回）日本神経学会専門医試験は，第一次試験を6月15日（土）に東京大学駒場キャンパス，第二次試験を7月13日（土）に日本都市センター会館にて実施する予定です．

面接試験などに改めてご協力を宜しくお願い致します．